



こんにちは、子供の頃、釣りが大好きで、近くの沼で釣った小魚を3枚におろして遊んでしまった、植木守です。

6月といえば初夏です。ピクニックに良い季節です。つい張り切りすぎてお弁当を作りすぎてしまつて「晩ご飯もお弁当の残り」とならないように気をつけてくださいね。

まさか自分がガンなんて！

牧野純子さんと会ってガンの体験を聞いてきました。牧野さんとは、先月、農業体験をしに仁木町の銀山へ行った時に会いました。とても明るくガンなった時の事を話してくれたのが印象的で、先月の「ほのぼの通信」に紹介できずに心残りだったのです。この事を電話で話し「お茶をご馳走するので体験談を聞かせて欲しい」と伝えると、こころよく「いいですよ」との事、6月18日になりました。

いよいよ当日、環状線と12号線の交わる不二屋へ着くと、すでに来ていて私がノートを出すと「もう始まっているの？」と言ってちょっと照れた風でしたが話し始めたのです。



「私が43歳の時、ガンになる前は、二つの仕事をかけ持ち、町内会と学校の役員など3つをこなしていた頃なの」私は「それに家庭と子育てでしょ！」と言うと「そう・そうなんですよ」。私は「おさんはいくつ？」と聞くと「18歳」、「じゃ！受験生じゃないですか！」と私。「だから大変だったのよ」と・・・

「わたし、一人で医者からの告知を聞いたんです。(夫は単身赴任中)」、「家族や友人が見舞いに来ると気丈に振舞っていたんですけど、入院して手術までの3日間はベットに横になって“壁”を向いていたんです」、私は「どうして“壁”？」と聞くと「自家中毒状態なんです！」「病名は直腸がん、肛門から5cmの所、10cm離れていたら肛門は残った。手術はS字結腸から肛門まで、つまり、へその下から肛門まで全部を切り人工肛門に >受け入れられなかった・・・」
「この先、命を取るか肛門を取るか？5・10年先が見えなくなった。生きていられるのか？」、「今まで遠くにあった“死”が目の前になって付き合うことになった。」私は「その真剣な話しに聞き入ってる・・・」

2年間引きこもり！

「人工肛門になり退院して自宅に戻ると、とにかく人に会いたくない。人ごみの中に出かけたくない“便”が漏れたらどうしよう・・・」
「レンタルビデオを借りまくって画面を見てる」
「古本屋へ行って買った本を1日2冊も・・・」
「こんな日々が2年も続きました毎日・毎日」
その話しを聞いている私は「あ～そうなんだ・・・そうでしたか・・・う～ん」とあいづちを打つ事しかできませんでした。

「何冊もの本の活字を追っていると・・・」
「少しずつ、少しずつ、この自分と付き合っ、受け入れる事が出来るようになってきていました。」

このまま家に居るのはいや！

「このまま家に居るのはいやだ！どうかして社会復帰しなければ！」
「何か出来る事は無いかな？」と「思うようになってきたんです。」
「この時、手術後始めて夫、子供に支えられて生かされていると感じたのです。」私は、うなづくだけでした。

「その頃からは夢中でお年寄りの集まり・・・、子供の集まりで児童館に・・・などのボランティアに参加」
「いくつものボランティアに参加している人々と接していると、ある時苦しんでいる人の前にいると、ふとその痛みを感じるのです。」
へえ～私は「そんな事って有るのですか？」と聴いてみると、

「私にも良く分からないのですが、その人に今“優しくするのか”、“暖かさか”、“言葉をかけるのか”、自然と行動してるのです。」
私は「それってもう社会復帰してるじゃないですか・・・」



銀山の近くの小川

平成15年子宮体ガン発病

やれやれ、「これから楽しい人生を歩めるね」と私が話そうとした所で、またもやガンなんて信じられない言葉が牧野さんから出てきた。

牧野さんは「ガンとゆう病気の治療は手術とメンタルの両方が必要と体験して分かった」と言う。それが試される時が再度ガンなんて、私のガン保険加入のお客様でもほとんど例がないのです。

「51歳になった時に出血が止まらなくなって、国立がんセンターへ行ったんです。」
「ガンセンターの医師の告知を受けている時その医師は“非常に冷静

だ」とはなしてくれました。」「心の中で何があってももう大丈夫」と思っていたそうです。私はその話を聞いたとき「まるで女性版石原裕次郎だね」と笑って話しましたが、そのしなやかな精神状態に感心させられました。

そして5年経って、今の牧野さんになったのでしょうかね。銀山で逢った時は、何でも積極的で、裏表が無く、どんな事でも楽しんでるような、無邪気な子供のようにも

見えました。え！ガンはどうなったかって？もちろん治って毎日楽しい日々を過ごしているそうです。

釣の途中にハイポーズ



ガンの状況とは？

厚生労働省のホームページから抜粋して掲載します。 参照 厚生労働省ホームページ

URL : <http://www.mhlw.go.jp/index.html>

厚生労働省では、健康のページの疾病のトップに「がん対策基本法に基づき、がん予防及び早期発見の推進、がん医療の均てん化の促進、研究の推進等に必要施策を行っています。」の内容を掲載しています。

この内容のうち特に必要と思われるものに絞り込んで解説します。

現状：がんは、昭和56年より死因の第1位

年間30万人以上の国民が亡くなっている。

生涯のうちにがんにかかる可能性は男性の2人に1人、女性の3人に1人、さらに、がんは加齢により発症リスクが高まるが、今後ますます高齢化が進行することを踏まえると、その死亡者数は今後とも増加していくと推測される。

小児の死因を見れば、依然としてがんが上位を占めている。

がんは、「国民病」と呼んでも過言ではなく、国民全体が、がんを他人事ではない身近なものとして捉える必要性がより一層高まっている。

食生活の欧米化等により、肺がん、大腸がん、乳がん及び前立腺がん等については増加傾向にある。（胃がん及び子宮がん等については、最近10年間で横ばい）

「平成17年患者調査」によれば、継続的に医療を受けているがん患者数は140万人以上と推計、1年間に新たにがんになる者は現在50万人以上とされている。

その一方で、初期治療の終わったがん経験者が社会で活躍しているという現状もある。

ガンにならない為には？

何が何でも、あなたを守ります！

顧客代理人

植木 守

FP事務所 T・F・C

がん検診の受診率は、「平成16年国民生活基礎調査」によれば、あらゆる実施主体によるものを含め、男女別がん種別で見た場合、13.5%~27.6%となっている。欧米諸国と比べて低い。

がん検診の種類は、胃がん検診、子宮頸部がん検診、子宮体部がん検診、肺がん検診、乳がん検診、大腸がん検診などがあり、5年以内に検診率を50%まで上げる方針を出している。

つまり、ガンにならない為には、早期発見が第一である。健康であっても定期的に検診を受ける必要があると言う事です。

ガンの治療方法とは？

がんに対する主な治療法としては、局所療法として行われる手術及び放射線療法、全身療法として行われる化学療法がある。

がんの種類によっては、放射線療法が手術と同様の治療効果を発揮できるようになるとともに、新たな抗がん剤が多く登場し、化学療法の知見が蓄積してきたことから、進行・再発といった様々ながんの病態に応じ、手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療が各々を専門的に行う方向になってきている。

専門的ながん医療を推進するため、専門的ながん治療を行う医師のみならず、看護師、薬剤師、診療放射線技師等の医療従事者が協力して治療に当たる体制を構築していく方向性である。

病院の実際とは？

ガンになって、入院となるとどこの病院へ行ったらよいか分からない。

入院日数が短くなってきている為、短い間に出費がかさむ。一時的な出費が重なる。

これは私からガン保険等に加入していただいてガンになった方数人から聞いたが、病院のスキル、専門性によって治癒率が変わってくる。この事は、セカンドオピニオンサービスを行っている「ティーペック」でも言っている。

実際の出費とは？

先ず治療費が真っ先にかかるが、健康保険で治療出来る範囲は高額療養費の範囲になるので、個人負担額はさほど大きな金額にはならない。

どうしても助かりたい、先進的な医療を施したいとなると話しは別、数百万はかかることがある。

家族の通院、諸経費もそんなに大きな金額ではないが、一家の大黒柱の場合は収入が途絶えるので経済的な負担は大きい。

国民の5人に2人以上がガンになる可能性があるならば、ガン保険は必要不可欠な保障と言っても過言ではないことは明らかだ。